

(別紙様式1)

団体名	COCOレンジャー
-----	-----------

事業実績報告書 (28 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 <input type="radio"/> 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	犬、猫の殺処分ゼロを目指す 地域猫活動、TNRの推進	
3 交付決定助成金額	257,000円	
4 助成事業に要した経費の額	933,016円	
5 助成金要望額	257,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	<p>1. 犬、猫の殺処分ゼロを目指す。</p> <p>2. 地域猫(さくら猫)を広め、人と動物が、明るく、快適に共生できるまちづくりを目指す。</p> <p>3. 野良猫の問題を、地域、環境、高齢者問題ととらえることで、行政、地域住民と協働してまちの課題の解決にあたる社会を実現する。</p> <p>(詳細説明)</p> <p>1.関連事業 TNR(捕獲・不妊手術・リターン) ♂ 41匹 ♀83匹 計 124匹 乳児、怪我を伴う猫の保護、並びに里親への譲渡 犬 9匹 猫 56匹</p> <p>2.関連事業 啓発活動のため、各種イベントへのブース出展 桜よさこい 妻沼手づくり市 アイメイト共同ブース おにっこまつり 熊谷エコライフフェア B級グルメ</p>

		<p>熊谷うちわ祭 まちな猫の写真展 ニャオザネまつり 星霜祭 熊谷市産業祭 くまがやまの灯り 原田勇雅コンサート 「犬に名前をつける日」自主映画会 等、他</p> <p>3.関連事業 啓発ブース、また市内各店舗における募金活動 小冊子「ある犬のおはなし」を熊谷市立小中学校全 589 クラス に手づくり配布 映画「犬に名前をつける日」自主上映会 ならびにトークショー</p>
	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	<p>飼い主のいない動物を根本的に増やしているのは、業者であり、飼い主であり、またそれを十分にコントロールできない国の法律の不備です。その点に関しては全国的な活動とともに、数の力がないと解決できません。また、協力獣医師の不足です。獣医は自由診療ですので、その価格は定まっていません。多くの猫を TNR していくには莫大な資金が必要になりますが、おかげさまで近隣に協力獣医師が存在する御蔭で活動が成り立っています。しかしながらその獣医への負担は見逃せません。行政と条例を基に協定を結ぶという方法をとっている自治体もありますが、数はとても少ない状況です。</p>
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	<p>目に見える大きな変化はすぐには出ないでしょう。しかし確実に不幸な命は減っていきます。継続して TNR を進めつつ、行政の意識改革と、協力獣医師の発掘に努めます。</p>
7 成果の自己評価		<p>ご支援をいただき、おかげさまで「地域猫」の呼称とともに、私たち団体の事も少しずつ認知され、地域での活動がスムーズに行われるようになってきました。記録のとおり、当初目標よりも圧倒的に多い TNR が実践され成果を上げています。熊谷市においても活動が評価され、平成 29 年度市民協働「熊谷の力」事業に採択され、29 年度は行政と共に活動を進めます。また、自治会連合会を通じ自治会との連携、埼玉県動物指導センターと、熊谷市行政、ボランティアの連携が定期的に行われるよう、努めていきます。</p>

(別紙様式1)

団体名	めぬま館・お休み処
-----	-----------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	国宝聖天山周辺観光・まちおこし(七夕飾り)	
3 交付決定助成金額	126,000円	
4 助成事業に要した経費の額	232,518円	
5 助成金要望額	126,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	当日は朝から雨が降り、開催自体が危ぶまれた中であつたが、多くの方々の協力により、期待を上回る成果が得られ、七夕飾りの催しを通して来訪者に熊谷の素晴らしさをアピールできた。 また、イベントの参加者に市営駐車場を利用するよう案内をして、利用促進にも貢献できた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	助成事業の 地元商店街の行う恒例の七夕飾りに合わせて開催したこと、また地元の幼児にも参加いただいたことにより、まちの賑わいを増すことができた。さらに、めぬまレディース、めぬまチャンネル、ふれあいネットワーク等、各種団体との協働もできた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	聖天様境内に18本の笹竹を設置し、約180人の来訪者に短冊を書いてもらい飾り付けをした。7月9日にはキャンドルを200個並べ天の川に見立てた。 また、カラーキャンドルで大きなハートを模って縁結びのまちをイメージした。コンサートは、ハーモニカ、尺八、鼻笛の演奏に合わせ、約260人の参加者も共に歌い楽しんだ。
7 成果の自己評価	地元の商店街と住民、さらに関係する各種団体との協力も得られ、来場者に好評をいただいた。 今後は、ワールドカップの開催も視野に入れ、“おもてなし日本一”をめざして聖天山周辺の賑わいを高めていきたい。	

(別紙様式1)

団体名	めぬまガイドボランティア阿うんの会
-----	-------------------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	郷土を知り、良さに気づき、郷土愛のある人を育てる	
3 交付決定助成金額	227,000円	
4 助成事業に要した経費の額	215,415円	
5 助成金要望額	161,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	① 旧妻沼町の小学校(5校)6年生に対する出前授業は100%実施でき、児童は授業に対し非常に興味を持ってくれた。達成度は100% ② 阿うんの会員、熊谷市内の郷土文化会、熊谷探偵団等の会員等の資質の向上に向けて行った講演会に多くの参加者を得ることが出来た。達成度80%
	(2) 助成事業の成果の現われ度	① 出前授業での成果は、顕著に表れてきている。6年生が保護者を聖天堂に招待し、児童自身がガイドをしていた学校もあった。100% ② 阿うんの会主催の研修会に他の団体からの参加者はまだまだ多いとは言えなかった。成果の現われ度は70%
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① 妻沼小学校では、6年生が保護者に聖天堂をガイドしていた。 ② 太田小学校においては、6年生が下級生に聖天様の文化財的な価値や素晴らしさを教えていた。 ③ 阿うんの会主催の講演会に他の団体からも回を重ねるに従って参加者も増えてきた。 研修会に参加した他の団体「熊谷歴史研究会・熊谷探偵団・熊谷雑学会・妻沼地区歴史研究会・斉藤別当実盛敬仰会・吟子の会・吟子保存会」
7 成果の自己評価	① 6年生への出前授業は好評だったので、29年度も28年度同様に実施する計画である。 ② 阿うんの会主催の講演会に、他の団体から参加しやすい時間帯や会場等を工夫していくことにより、より多くの方が参加出来るようにする。	

(別紙様式1)

団体名	めぬまガイドボランティア阿うんの会
-----	-------------------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	郷土を知り、良さに気づき、郷土愛のある人を育てる	
3 交付決定助成金額	227,000円	
4 助成事業に要した経費の額	215,415円	
5 助成金要望額	161,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	① 旧妻沼町の小学校(5校)6年生に対する出前授業は100%実施でき、児童は授業に対し非常に興味を持ってくれた。達成度は100% ② 阿うんの会員、熊谷市内の郷土文化会、熊谷探偵団等の会員等の資質の向上に向けて行った講演会に多くの参加者を得ることが出来た。達成度80%
	(2) 助成事業の成果の現われ度	① 出前授業での成果は、顕著に表れてきている。6年生が保護者を聖天堂に招待し、児童自身がガイドをしていた学校もあった。100% ② 阿うんの会主催の研修会に他の団体からの参加者はまだまだ多いとは言えなかった。成果の現われ度は70%
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① 妻沼小学校では、6年生が保護者に聖天堂をガイドしていた。 ② 太田小学校においては、6年生が下級生に聖天様の文化財的な価値や素晴らしさを教えていた。 ③ 阿うんの会主催の講演会に他の団体からも回を重ねるに従って参加者も増えてきた。 研修会に参加した他の団体「熊谷歴史研究会・熊谷探偵団・熊谷雑学会・妻沼地区歴史研究会・斉藤別当実盛敬仰会・吟子の会・吟子保存会」
7 成果の自己評価	① 6年生への出前授業は好評だったので、29年度も28年度同様に実施する計画である。 ② 阿うんの会主催の講演会に、他の団体から参加しやすい時間帯や会場等を工夫していくことにより、より多くの方が参加出来るようにする。	

(別紙様式1)

団体名	認定NPO法人くまがや小麦の会
-----	-----------------

事業実績報告書 (平成28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	「10周年記念誌 認定NPO法人へのガイドブック」の発行を行い、広く市民の皆様へ説明会を開催する。熊谷産小麦に乳酸菌生産物質を配合した「マーブル・フローラ・サブレ」の開発と広く市民を対象としたクッキング教室の開催	
3 交付決定助成金額	256,000円	
4 助成事業に要した経費の額	650,900円	
5 助成金要望額	256,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	① H28.10.15「10周年記念誌 認定NPO法人へのガイドブック」の発行を実施。関係部署への配布、説明会の開催を実施した。 ② 乳酸菌生産物配合の「マーブル・フローラ・サブレ」を新発売した。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	① 「認定NPO法人へのガイドブック」を教材にNPO法人への説明会を実施し、参加者の中から認定NPO法人を申請した団体が出た。 ② 「マーブル・フローラ・サブレ」を小麦の会の直売所、小麦の会ホームページで紹介、拡売を実施した。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① 認定NPO法人を申請する団体が出てきた。 ② 「マーブル・フローラ・サブレ」の定期的な購入者が出てきている。
7 成果の自己評価	① NPO法人にとって認定を取得することの意義の理解を進めることが出来た。認定NPO法人に対して寄付をして頂く企業、個人は税	

	<p>制の優遇措置が受けられる。この事は認定NPO法人が寄附を受け易くなり、法人の活動に広がりが出てくる。人が暮らしやすい環境の作りが認定NPO法人の活動目的であるので、体質強化された認定NPO法人の企業としての活動価値を高める機会に貢献できた。</p> <p>② 高齢化社会を元気で過ごす元は自己免疫力の強化が有効である。クッキング講習会を通して、乳酸菌生産物質の普及、乳酸菌生産物質配合の「マーブル・フローラ・サブレ」の拡売を行い、常用して頂く消費者の方が増えてきた。</p>
--	--

(別紙様式1)

団体名	All Education Academy
-----	-----------------------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	インバウンド×英語ボランティアキッズ in 熊谷うちわ祭 2016	
3 交付決定助成金額	257,000円	
4 助成事業に要した経費の額	458,829円	
5 助成金要望額	257,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	外国人家族と日本人家族（ボランティアスタッフも含む）双方にアンケートを実施した結果、当初目標としていた満足度80%を超える結果として100%を達成した。（詳細は別紙アンケート集計表参照）
	(2) 助成事業の成果の現われ度	この事業を進めていくにあたり、インバウンド対策に向けたアプリ開発の協力（有限会社エイケイシステム様）、又、荒川区及びうちわ祭り協賛会から来年度へ向けた更なる連携を構築していくこととなっている。 この事業を通して、横田基地との交流がスタートした。9月には横田基地友好祭へのバスツアーを実現する。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	・参加受講者 11組の家族（年中～高校生までの子供とその家族） ・英語ボランティアスタッフ 6名（内1名カナダ留学中の高校生） 全受講者に「日常会話を目標に、常に心掛けて行き、英会話を使える様になりたい。もっと英語をがんばりたい。」という気持ちが芽生え、今後も外国人との交流機会を持ちたいと思っている。9割の受講者が、3年後のRWCや2020年東京オリンピックに向けた通訳養成講座への受講を希望している。
7 成果の自己評価	当初の目標に対し、人材の確保について課題はあるものの、参加者の満足度も非常に高く、はじめの一步事業としては成功を収めたと実感している。ただのイベントに終わらず、9月からも継続的な人材育成を行っていく。	

(別紙様式1)

団体名	All Education Academy
-----	-----------------------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	インバウンド×英語ボランティアキッズ in 熊谷うちわ祭 2016	
3 交付決定助成金額	257,000円	
4 助成事業に要した経費の額	458,829円	
5 助成金要望額	257,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	外国人家族と日本人家族（ボランティアスタッフも含む）双方にアンケートを実施した結果、当初目標としていた満足度80%を超える結果として100%を達成した。 (詳細は別紙アンケート集計表参照)
	(2) 助成事業の成果の現われ度	この事業を進めていくにあたり、インバウンド対策に向けたアプリ開発の協力（有限会社エイケイシステム様）、又、荒川区及びうちわ祭り協賛会から来年度へ向けた更なる連携を構築していくこととなっている。 この事業を通して、横田基地との交流がスタートした。9月には横田基地友好祭へのバスツアーを実現する。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	・参加受講者 11組の家族（年中～高校生までの子供とその家族） ・英語ボランティアスタッフ 6名（内1名カナダ留学中の高校生） 全受講者に「日常会話を目標に、常に心掛けて行き、英会話を使える様になりたい。もっと英語をがんばりたい。」という気持ちが芽生え、今後も外国人との交流機会を持ちたいと思っている。9割の受講者が、3年後のRWCや2020年東京オリンピックに向けた通訳養成講座への受講を希望している。
7 成果の自己評価	当初の目標に対し、人材の確保について課題はあるものの、参加者の満足度も非常に高く、はじめの一步事業としては成功を収めたと実感している。ただのイベントに終わらず、9月からも継続的な人材育成を行っていく。	

(別紙様式1)

団体名	在宅ライフ倶楽部
-----	----------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	“障がい者在宅ライフ倶楽部をみんなに知ってもらおう”	
3 交付決定助成金額	256,000円	
4 助成事業に要した経費の額	169,092円	
5 助成金要望額	126,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	障がい者在宅ライフ倶楽部を知ってもらおうという目的で、うちわ祭の出展、映画上映会、ミニライブを開催した。参加者の在宅障がい者の生活への理解が深まるなど、期待していた成果の概ね70%程度達成できた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	イベントへの参加やボランティアでのイベント手伝いなどを行ってもらい、概ね70%程度成果が現われている。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① うちわ祭りでは、お祭り広場にPRブースを出展でき、100名が参加した。中学生のボランティア参加もなされた。 ② 「えんとこ」上映会では、立正大学を会場とし、大学生・一般参加者約80名に在宅障がい者の生活を知ってもらえた。 ③ ミニライブでは一般参加者約100名との交流が実現した。
7 成果の自己評価	企画したイベントのいずれも事前準備段階からボランティアの手伝いがあった。当日参加者も多く、ある程度目的を達成できたが、これからも在宅ライフ倶楽部を広めていきたい。	

(別紙様式1)

団体名	村岡自治会
-----	-------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	文化財めぐりスタンプラリー	
3 交付決定助成金額	77,000円	
4 助成事業に要した経費の額	102,953円	
5 助成金要望額	77,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	多世代にわたる多くの地域住民の参加を通じて、「連携の絆」と「地域コミュニティの活性化」が図られ、チャレンジ助成事業の初期の目的をほぼ達成したと考えている。(目的達成度95%)
	(2) 助成事業の成果の現われ度	前年度の市民協働「熊谷の力」事業の成果を生かし、文化財に対する近隣地域や一般市民への啓発活動も目的とした。関心度も高く、吉岡地域以外の市民の参加もあつたり、次年度開催への要望も多く寄せられるなど、事業の成果は計画通り成功した。次回は、さらに周知のための広報活動に時間と工夫を加えていきたい。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① 多世代かつ多地域にわたる住民の参加 (幼児から最高齢者89歳、村岡地区以外からも多数の参加) ② 住民の文化財への関心度の高まり (解説者の話を熱心に聞いたり、文化財案内立札を見たりして、理解を深めようとする多くの姿があつた。) ③ 歩きながらヘルスアップ運動への取り組み (日常のウォーキング活動への動機づけとなつた) ④ 吉岡地区各自治会、各種団体間の堅固な協力体制の構築(主催団体役員以外に、吉岡地区各自治会や各種団体の役員、ボランティア等が応援スタッフとして参画した)
7 成果の自己評価	① この事業により、地域の財産である文化財に対す	

	<p>る住民の関心を高めるといふ大きな成果をあげた。</p> <p>② 幅広い世代間の交流を通じて、地域の活性化を図るコミュニティ活動として、今後も取り組んでいく基盤が形成されたと考えている。</p>
--	--

(別紙様式1)

団体名	にじいろリングプロジェクト実行委員会
-----	--------------------

事業実績報告書 (平成28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	「にじいろリングプロジェクト～子どもの笑顔は宝物～」 ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会
3 交付決定助成金額	86,000円
4 助成事業に要した経費の額	267,455円
5 助成金要望額	86,000円
6 助成事業の成果	<p>(1) 助成事業の目的達成度</p> <p>1. 子育てをするすべての人々に「うまれる」ことの奇跡と命の大切さ、家族の絆、人との繋がり、生きることとは何かを共に考える機会を創る。</p> <p>子育てをする環境は、子供が成長する過程で変化していく。ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会に参加された多くの方々が「生命誕生」の素晴らしさや奇跡を感じ、家族の絆や人との繋がり大切さを改めて気付く機会となった。</p> <p>2. 子育て支援を通してさまざまな社会的不利(ハンディキャップ)に関わらず、この地域に暮らすすべての人々が生きやすい環境を創る。</p> <p>この地域には、社会的不利(ハンディキャップ)のある人もない人も様々な人が暮らしている。実際に、自分の暮らす地域にどのような人たちが暮らし、存在するのかということはこのプロジェクトを通じて、気付き知ろうとすることで、皆が暮らしやすい地域に何が必要かを考えるきっかけとなった。</p> <p>3. 次世代を担う子育てに関わるすべての人々がお互いを知り、理解し、助け合える環境を創る。</p> <p>子育てに関わる多くの人々が一堂に会し、子どもの障害の有無に関わらず同じ時間を共有することで、今、地域に様々</p>

		<p>なハンディキャップを持つ人も生活している事を知り、触れ合う事で相手を理解し助け合おうという気持ちが育つきっかけとなった。</p>
	<p>(2) 助成事業の成果の現われ度</p>	<p>ドキュメンタリー映画「うまれる」上映会に参加されたみなさまからいただいたアンケートには、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が生まれた時のことを考えたことや親と話したことがなかったが、考える良いきっかけとなった。 ・「うまれる」ことがすごいことだと改めて思うことが出来ました。大切な命を預かる保育者を目指しているのでとても良い勉強になった。 ・自分が生まれた時もこうだったのかなと思い、親に感謝したいと思いました。 ・様々な夫婦の姿、家族の姿を見ることができて、今、生きていることは当たり前ではないと感じました。 ・当たりの日常がすごくすごく大切なんだと思いました。 ・出産を思い出し、改めて我が子の愛おしさを感じました。 ・是非、中高生など学生にも見て欲しい。 ・家に帰って子どもを抱きしめようと思いました。 ・命、家族について改めて考え、家族に感謝する機会になりました。次は、家族と一緒に見たいです。 <p>などの感想が寄せられた。</p> <p>上映会を通じ、子どもと向き合うことの大切さや、命の奇跡を再確認された方もアンケートから多く感じられた。</p> <p>また、命の重みには、ハンディキャップや、さまざまな環境の差はあっても変わりが無いという事に気付かれた方も多かったように思う。</p>
	<p>(3) 助成事業の成果の具体的内容</p>	<p>【観賞者数】</p> <p>8月3日(水) さくらめいと月のホール</p> <p>◆午前の部</p> <p>成人 82名 児童 7名 計 89名</p> <p>未就学児 54名 (内託児利用数 25名)</p> <p>◆午後の部</p> <p>成人 86名 児童 24名 生徒 6名 計 116名</p> <p>8月5日(金) 立正大学 1101教室</p> <p>成人 37名 計 37名</p> <p style="text-align: right;">合計 242名</p>

7 成果の自己評価

現在子育て中の家庭を取り巻く環境は、核家族化や、女性の社会進出により、孤立しやすい現状が見られる。子育てをする上で大切なことは、子どもが生まれる『奇跡』を大事に日々過ごすことではないかと感じている。

これからの次世代を担う若いお母さんたちは『命』に一番近いところにおいて、柔らかい感性で子育てをしている。

地域を知り、地域に暮らすさまざまな人達と関わりを持つことがよりよい子育て環境を創り、共生社会への一歩に繋がると気付いてもらえた上映会になった。

(別紙様式1)

団体名	特定非営利活動法人	オレンジステーション
-----	-----------	------------

事業実績報告書(平成28年度)

1 助成金名		「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称		「おいしく食べて元気で長生き」体験イベントをスタートアップ 作戦にするはじめての一步
3 交付決定助成金額		86,000 円
4 助成事業に要した経費の額		136,326 円
5 助成金要望額		86,000 円
6 助成 事業の 成果	(1) 助成事業の 目的達成度	県内の高齢化は他県に類を見ない速度で訪れます。 スタッフの経験や実績を生かし「健康寿命を延ばす」 ことをサポートする目的で体験イベントを開催しま した。 その結果、活動内容を皆さまに知って頂くことが出 来、「健康寿命を延ばす」ための基盤になりました。
	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	体験イベントを通して、一人ひとりの健康意識、生活体力 の向上により、いつまでも日常的に介護を必要としない 自立した生活をおくるための参考になりました。 参加者から直ぐに実行でき役立ったなどの声があり、一 人ひとりの健康意識がさらに高まりました。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	10月22日に「おいしく食べて元気で長生き」体験イベン ト開催。 内容は口腔、食事、運動について「いつでもどこでも誰 にでも簡単に実践できる」講座 ①歯科衛生士による「お口の話」②管理栄養士による 「食事の話」③健康運動指導士による「簡単運動」で実技 を交え、50代~70代の方を中心に約30人を集めて行わ れ、笑いながら大変にぎわいました。
7 成果の自己評価		講座終了後に参加者の方から、「楽しく学べました」「今 後の参考になりました」「家でもやってみます」「久しぶり に脳みそが動いた気がした」「すこしでも気をつけていき たいと思う」などの声があり、一人ひとりの健康意識が更 に高まる結果に結び付きました。 少しずつ一人ひとりが今回の講座内容を生活に取り入れ ることで、健康意識が高まり、「健康寿命を延ばす」ことが できると確信しました。 これを糧に更に活動していきたいと考えています。

(別紙様式1)

団体名	これからの地域の繋がりや街づくりを考える会“ペガサス”
-----	-----------------------------

事業実績報告書 (平成 28 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	
2 事業名称	街のしゃべり場 ちょこっと より道	
3 交付決定助成金額	86,000円	
4 助成事業に要した経費の額	105,714円	
5 助成金要望額	79,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	イベントなどを通して、当初の目的である支えあうコミュニティづくりが出来つつある。 参加者から、この様な場所があって嬉しいとの声があった。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	初めて顔を合わせる方が多く集う一方、再来する方もあった。これらの人と人とが新たな繋がりを持ち、皆が集える場所となってきた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	イベント参加者 (七夕 11 人、餅つき 9 人) 布ぞうり講習受講者 (全 7 回、54 人) 布ぞうり講習会は、特に人気があり、数ヶ月先まで満員となり、キャンセル待ちを希望する人もいた。
7 成果の自己評価	市報などの掲載により、関係者のみにとどまらず多くの人との輪が少しずつ広がっている。 これはこの事業の成果だと評価できる。 誰もがふらっと立ち寄れる集いの場となる為、商店街の活性化となる為、引き続き継続していく事が大切と考えている。	

(別紙様式1)

団体名	これからの地域の繋がりや街づくりを考える会“ペガサス”
-----	-----------------------------

事業実績報告書 (平成 28 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	
2 事業名称	街のしゃべり場 ちょこっと より道	
3 交付決定助成金額	86,000円	
4 助成事業に要した経費の額	105,714円	
5 助成金要望額	79,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	イベントなどを通して、当初の目的である支えあうコミュニティづくりが出来つつある。 参加者から、この様な場所があって嬉しいとの声があった。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	初めて顔を合わせる方が多く集う一方、再来する方もあった。これらの人と人とが新たな繋がりを持ち、皆が集える場所となってきた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	イベント参加者 (七夕 11 人、餅つき 9 人) 布ぞうり講習受講者 (全 7 回、54 人) 布ぞうり講習会は、特に人気があり、数ヶ月先まで満員となり、キャンセル待ちを希望する人もいた。
7 成果の自己評価	市報などの掲載により、関係者のみにとどまらず多くの人との輪が少しずつ広がっている。 これはこの事業の成果だと評価できる。 誰もがふらっと立ち寄れる集いの場となる為、商店街の活性化となる為、引き続き継続していく事が大切と考えている。	

(別紙様式1)

団体名	KUK-KIZUNA プロジェクト推進委員会
-----	------------------------

事業実績報告書 (28年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	
2 事業名称	KUK-KIZUNA プロジェクト	
3 交付決定助成金額	86,000円	
4 助成事業に要した経費の額	91,097円	
5 助成金要望額	68,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	親子でふれあう場の提供をつくることで、親子関係の充実に協力できた。 (親子で楽しむための体験交流会企画)
	(2) 助成事業の成果の現われ度	ベーグル作りの指導者5名を育成し、平成28年11月20日くまびあに於いてベーグル作りの体験交流会を開催した。 24名の参加があった。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	ベーグル体験交流会には、親子11組の参加があった。 ベーグル講習会で資格を得た5名のインストラクターが各テーブルにつき、参加者に成形、焼きの指導をし、会食まで十分楽しんで貰えた。
7 成果の自己評価	当初の目標である、「指導者養成講習会、親子ベーグル体験交流会の開催」を達成できたと評価できる。 今回は、体験交流会でベーグル作りの工程のうち、主に「成形」、「焼き」を体験していただいたが、今後は「生地作り」から親子で参加していただくことで、さらなる親子の絆の形成を図りたいと考えている。	